



▲まちなか（中心市街地）の再生に向け活発な議論が

なぜ必要？市役所機能の再配置

現状の抱える

問題点と課題

①本庁機能が七カ所に分散

本庁舎のスペース不足により、市役所の本庁機能は現在、左図のとおり大手通り周辺など七カ所に分散し、利用するみなさんにとって分かりにくい状況です。これは、市町村合併などに



より職員数や業務量が増加し、幸町の本庁舎だけでは収まらなくなったためです。現在、本庁組織（課）の三分の一以上が本庁舎以外にあります。今後の計画的な職員削減を見越しても、国・県からの一

分散配置や交通弱者の利便性などに問題を抱える現在の市役所。だれもが利用しやすい市役所を目指し、各界各層の市民の代表や有識者など十五人から成る行政機能再配置検討市民委員会では、移転を含めた市役所機能の具体的なあり方が検討されています。なぜ今、市役所機能の再配置なのか。今回は、その現状と問題点を掘り下げます。

層の権限移譲に伴い、政策立案などの業務が増えることか

ら、この分散状態は解消できそうにありません。

②交通弱者にとって不便

現在の市役所の立地は、車を使う人の利便性を優先しています。半面、バスや電車など公共交通の結節点である中心市街地からは距離があり、車を使えないお年寄りや障害

のある人にとっては不便です。車を利用する大多数の人々には忘れられがちな視点かも知れませんが、少数の交通弱者に十分に配慮した市役所機能の再配置は重要な課題です。

③耐震性への不安

幸町にある本庁舎は、防災拠点としての耐震性に不安を抱えています。新耐震基準施行以前の昭和五十二年に建設され、一昨年の中越大地震災

では、耐震性への不安が現実のものとなりました。また、柳原分庁舎（中央公民館や科学博物館など）の老朽化も問題となっています。

◆さまざまな視点から検討
委員会では現在、次のコンセプトの下、市役所の再配置について検討しています。
□だれにでも利用しやすい

②市民サービスの向上
③空きビルや補助事業の活用
土地売却などでの儉約
◇
◇
圏行政管理課 ☎ 39・2208

中心市街地構造改革シンポジウムを開催

いよいよ動き始めた
「まちなか再生」

長岡の顔、まちなか（中心市街地）の再生に向けたシンポジウムが六月十三日、厚生会館に約三百人の参加者を集めて開催されました。

■「まちなか」はだれもが集える都市の中心
長岡駅前を中心市街地「まちなか」は、繁華街でありビジネス街であり、また、公共交通の結節点として、都市の様々な機能が集積しています。

法」が成立。人口減少や超高齢化社会への対応が狙いです。フロアには長岡造形大学生が作った街区空間の整備模型が据えられ、主催した「まちなか・考房」に集う若手研究者や学生、商店主などが登壇。活発な議論を交わしました。

しかし現在、公共施設の郊外立地や大規模店舗の閉店により空洞化が進んでいます。合併で広域化した長岡市にとって、この「まちなか」は、だれもが集える「都市の中心」として、今その重要性が再認識されています。

■ぶらぶら歩きが楽しい
そんな雰囲気が大切
長岡技術科学大学の大学院で都市計画を専攻する岩本陽介さんは、熊本市の例を挙げ「目的もなくぶらぶらしているのも楽しい。そんな雰囲気が大切」と提言。長岡造形大

学は「交通弱者にやさしく若者の集うまちなかに」「にぎわいを民間が演出するための仕組みづくりを」「人、モノ、お金情報が集まる場としての再生を」など、多様な提言がなされました。

参加者席から発言した森市長は「まちなか再生は、長岡市民全体の利益を考えた重要な取り組みです。その結果は、商店街の振興にもつながるものです」と語りました。会場を埋め尽くした大勢の市民が熱心に耳を傾ける姿からは、まちなか再生への思いやプロジェクトへの大きな期待が感じ取れました。

まちなかの再生について、意見を寄せてください。
◇
◇
圏まちなか活性課 ☎ 39・2807

総合計画策定に向け検討進む
まちづくりの戦略をめぐり
策定委員会で議論！

各部会で提案された分野別施策大綱

分野	施策大綱
教育・文化	人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現
福祉・健康	生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現
生活・都市基盤	都市の活力と魅力にあふれ、安全・安心で住みよいまちの実現
環境	環境にやさしく、豊かな自然と調和するまちの実現
産業	地域経済が元気で、働きやすいまちの実現

長岡市のまちづくりの指針となる総合計画。市では現在、今年度から十年間の新たな計画の策定作業を進めています。六月九日、第四回総合計画策定委員会が開かれ、重点的かつ戦略的に取り組むまちづくりの基本方針「まちづくり戦略」について話し合われました。案として示された「人づくり」「地域価値」「拠点性」などのキーワードに対し、委員からは「長岡ならではのキーワード」を、「抽象的な表現ではなく、長岡市として推すと

▲両市の市長と大地議長によるケヤキの記念植樹

▲宣言書に調印する森市長とシュレアー市長

ニュース
①長岡市訪問団がドイツ・トリアー市を訪問
②姉妹都市交流の合意

長岡市とドイツ・トリアー市は今年四月に姉妹都市になりました。六月二日、今度はトリアー市の議場で両市の交流を誓い合う姉妹都市締結調印式がありました。トリアー市の議員を前に、森市長は「戦禍を体験した両市が友好関係を深めることは、世界の平和にとって大きな意味を持ちます」とあいさつしました。両市の交流が未永く続くことを願って、現地の姉妹都市庭園で長岡市の木、ケヤキの植樹が行われました。